

技術・家庭科研究委員会

1 研究テーマ

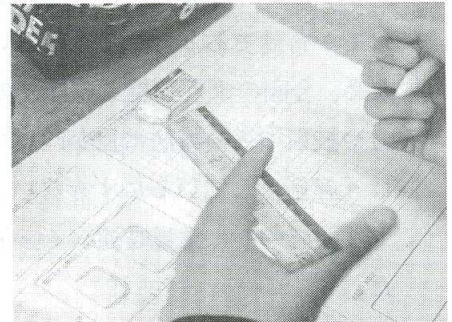
一人一人が自ら拓く技術・家庭科の学習

～子ども達の自己教育力を育み拓く、学習支援のあり方～

2 研究内容

(1) 公開研究授業

- ・期 日 平成 21 年 11 月 17 日(火)
- ・授業学級 小布施中学校 1 年 4 組
- ・単 元 名 技術とものづくり～木材加工～
…構想図の書き方を理解し、製作のための
構想図を作成する。(35 時間中の 8 時間目)



- ・授 業 者 原 靖 士 教 諭 ・ 指 導 者 信 州 大 学 准 教 授 村 松 浩 幸 先 生

(2) 研究の柱

【柱 1】使用目的や条件を考えた製図の利用と指導のあり方について考える。

→実際の授業の中での製図学習の場面を通して研究を深めていく。

【柱 2】自分の製作物を実際に利用することで、生活に根ざす力の定着をはかる。

→委員の実践を紹介し、情報交換をする中で題材や、指導の方法を考えていく。

3 研究の成果

(1) 研究の柱の具現化のために

① 製図学習に関わって（公開授業の中での具体的な取り組み）

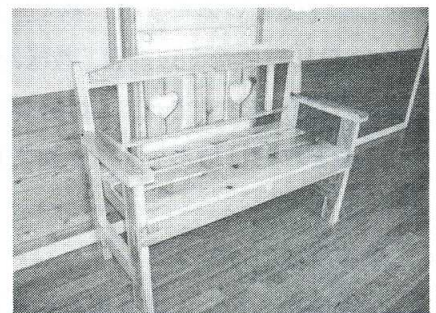
- ・構想図は使用目的や条件にあわせ修正を行うが、寸法のみで修正は変更しない。
- ・製作のための構想の時間を十分に確保することで今後の学習の見通しを持たせる。
→生徒が作品のイメージを具体的に持つことで、製作の能率も向上していく。
構想を元に製作することで、学びがなくても成り立ってしまう、「流される授業」からの脱却ができ、具体的な評価につながる。

② 『作って始まる。活動して始まる。』授業

- ・作品が完成してから始まるものづくりの指導のあり方を考える。
→昨年度の研究であるワーキングウェアの学びで見られたの学びの姿を、他の分野の題材でもい
かせる題材の選定を考える。(本年度は木材加工の実践から)
- ・自分の作品を利用することで、具体的な視点での評価ができる。
→新しい学習指導要領で入ってきた、技術の適切な評価・活用をしていく力の育成。評価が学び
の実感となる。新しい課題に取り組む意欲にもつながる。

<郡内の学校での具体的な取り組みの紹介>

- ・誰かに使ってもらおうという動機付け、依頼されたものをつくる製作。(温かいものづくり)
「お母さんのために調味料入れを作りたい。」「校長先生に依頼され、学校で使うものをつくる。」など、相手意識を考えた、職業的な製作の体験ができ、社会とのつながりが意識できる。
- ・学んだことを作品として持ち帰る学習。



→使用目的や条件をもとに、自分の作品の技術的な評価ができる。 <写真：小布施中学校>